

# デジタルデータ活用事業のイメージ

事業目的

広域観光組織等において、マーケティングやマネジメント等の手法を学ぶとともに、観光客の周遊動向データ等を活用し、市町村をまたぐ観光施策の企画・実践（実証事業）を重ねることで、広域観光組織等が取り組む観光施策の実効性の向上を図る。

現状・課題

- ◆広域観光組織等の日頃の取組におけるデータ活用は一定進んでいる
- ◆実証事業の取組から、広域観光組織の施策への定着や国費活用につなげている
- ◆今後は、高知県が推し進める施策との連動性を図り、実証事業をより広く、より長くおこなうことで、効果を最大化する。

## これまでの取組

◆観光動態データの導入と各組織が保有するデータ等を複合的に分析し、活用するための支援  
「分析ツール × データ活用のためのコーディネーター伴走支援 × 実証事業」

### ○ R4年度デジタルデータ活用事業

- (1) 分析ツール活用のためのワークショップ開催：9回
- (2) 実証事業：5エリア（高知市、仁淀川、物部川、れいほく、奥四万十）  
・エリアの観光スポット等への入込が多い府県を対象にSNS等で広告配信を実施  
⇒クリック率は全エリアで高く、本県に興味がある層へのアプローチが実現

### ○ R5年度観光地域づくり人材育成事業

- (1) ワークショップ開催：5回
- (2) 実証事業：7エリア（高知市、各広域）で2件以上、全16件  
・仁淀川：観光タクシーオンライン予約化による利用促進検証  
⇒実証事業を基にしたインバウンド向けの取組が観光庁事業に採択

### ○ R6年度デジタルデータ活用事業

- (1) ワークショップ開催：4回
- (2) 実証事業：5エリア（物部川、れいほく、仁淀川、奥四万十、幡多）  
・物部川：観光施設チケット付宿泊プラン販売による高知市からの誘客促進検証  
・幡多：四万十市宿泊客を対象とした飲食店への誘客促進策の検証

## 令和7年度の取組

### 【高知県施策との連動した実証事業】

#### テーマ1：大阪・関西万博からの誘客促進

(例) 東部×四国南東部広域観光連携協議会（徳島県南部）  
 検証：関西圏から徳島県ルートを通り、高知県に流入したあと、宿泊につながったかを検証  
 ⇒旅行会社と連携したツアー造成、宿泊施設と連携した周遊促進の仕組みづくり



#### テーマ2：地域博覧会から他のエリアへの周遊促進

(例) 物部×近隣エリア（高知市、れいほく、仁淀ブルー）  
 検証：博覧会の開催により、物部川⇄他地域の周遊促進、経済波及効果の検証  
 ⇒博覧会からの周遊促進を狙い、それぞれの地域の強みやターゲットを明確にした企画による周遊促進の仕組みづくり（宿泊、グルメ、物産、体験等）



### 【日頃の取組におけるデータ活用支援】

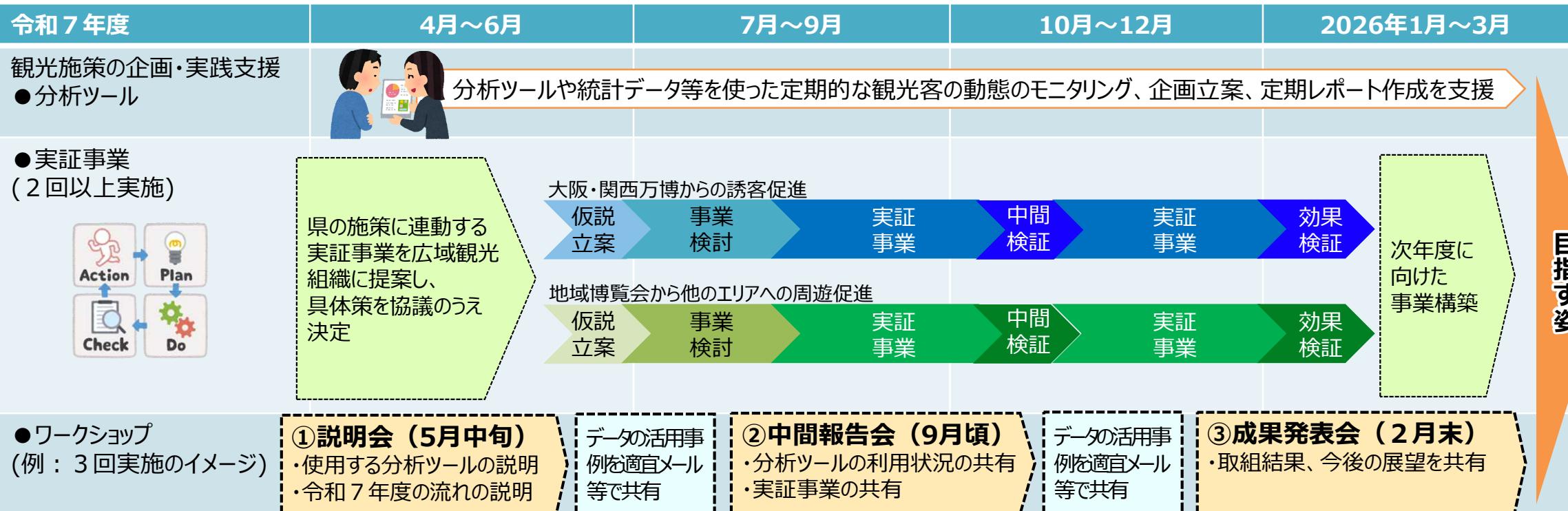
広域観光組織・管内市町村が実施する観光施策の効果測定や、改善点の洗い出し等につながる日常的なデータ活用についてのアドバイザー支援を実施

#### ＜支援事例＞

- ・広域観光組織等で集約している調査やオープンデータ等の複合的な分析方法 等

【事業内容・スケジュール】 【対象】 広域観光組織（高知県東部観光協議会、物部川DMO協議会、土佐れいほく観光協議会、仁淀ブルー観光協議会、奥四万十高知、幡多広域観光協議会）、高知市

事業内容・スケジュール(例)



目指す姿

県全体で観光客の滞在日数が増加し、観光消費額が拡大する